當用熟字并和文習字帖 全

K220.72
38

K220.72
38

國立公文書館内閣文庫

一書

母の安否を問ふる文

呈仕候

久家法諫音に於て

申渡之趣等は乗り合ふ家僕ふ順
次庭先家内使雙親様出奴婢等之様
伝清康より極ばされ也伝同中庭
賓は庭くに居右伝同の中笠に居

おもふに学問試験ののちて兎
角に怠惰不孝之なる不孝の罪

を変ぜん汝才能寛如形上を形式
孝に母事まて日に勉強いまし進

級の業を得て百世休祥を及ぼす

成績表を添付して一覧を上に達す

早梅を友人に贈る文

修学時代成績豊なる能多く朔風

骨肉を激するの限りはいづれも雁の
の梅は枝を過たずまや絶びそめて

七

葉風を送り春来を推じをさま
如何ぞも中つ〻生稲りこれを

八

にするに忍びず市に於て一枚佐刷覧
佐若し出勉學慰樂の一助とも出成

しなさらば幸を去まを産を毎〻

入學を賀する文

年を以て漸て法志望の某中学に
入るも優等の成績を以て法入學

法学士の志望の第一歩を進め
られんと本恭願は資性法頴

敏なる光の発するに精励を以て
して其の事なるべしと存じ

其の学の上は猶一層世を治め
由勉励なされ家業優等の品域

書稿の買入を依頼する文

度を相去度線地球を破り發刊

せんを某文學博士著東洋文

明史は洗練ありて婦人をもとりのとせ

ましい頗る善なりとのこと友人

を百何分も買取り新たに定價
表をもうれば右額にて少々御引様にて

御ばなれ必失從重手候ニ付乍恐
是迄あきら任せあなたを面倒おかけ

下総先ハ水戸藩士ニ
拙ノ先ヨリ東京狩友ノ道ヲ文

只ニ書物ノミニテ如ハ沼津藩屋ヲ
中拙宿ニ投宿セシ拙館ハ真ニ太

海洋として面し海上に家のまを加
けなしたれば家を来る大波の岩ふ

碎ける音すさまじく雷のごとく鳴り
響きわたりて海岸におそれられる

海藻い毛氈に苔まるがめく和緑
黒いろくて美鶏いと方々旅色

るる村童れ夕日を浴びて波遠
はれて貝を拾ひく拾び戯る拾

八重も及びてきて風情を時を
姫百合の咲き乱れる彼方の岸

乃禁より白き烟りのもくもくと立ち
上るが見えたこは如何に人魚の一パかばめ

と申海藻を焼て浜度を発
する由にて是の其先生ち[illegible]松

風村翁の苦れ様なと思ひ浮べられ
て今年ハ[illegible]ささぐのに対情を催す

明月は茅土を照れ海岸を散歩
し海水浴をも試みん大海の口に

出は定めて壮観なるべし
楽み居を匆〻不一

家族團欒無異
象族同窠世美

屠蘇雜煮年頭
庚蘇雜煮年頭

歲暮拜啓前略
案養拙啓可略

書面難有拜見
出面雖可拜見

奉謝兒角無音
事訝兒角無音

疎情失禮多罪
諫情失禮多罪

海容謹賀春暖
海宴謹賀春暖

酷暑秋冷嚴寒
酷暑秋冷嚴寒

時候風雨晴曇
時候風雨晴曇

健勝機嫌宜敷
健勝機嫌宜敷

頂戴世話依賴
以裁世話依扶

拜顏面談協議
拜彩面談協議

希望相違都合
希望相違都合

遺憾模樣通知
遺憾模樣通知

佽喜大慶無事
佽喜大慶無事

消光乍憚安意
消光乍憚安意

心配陳者倩扨
人配陳者倩扨

貴命仰愈益嘸
考爲仰爲爲考嘸

甚聊必今朝且
去孤必乞於且

先達過般近頃
先達亟敎亟於

此度早速至急
此度早速至急

即刻次第委細
即刻次第委細

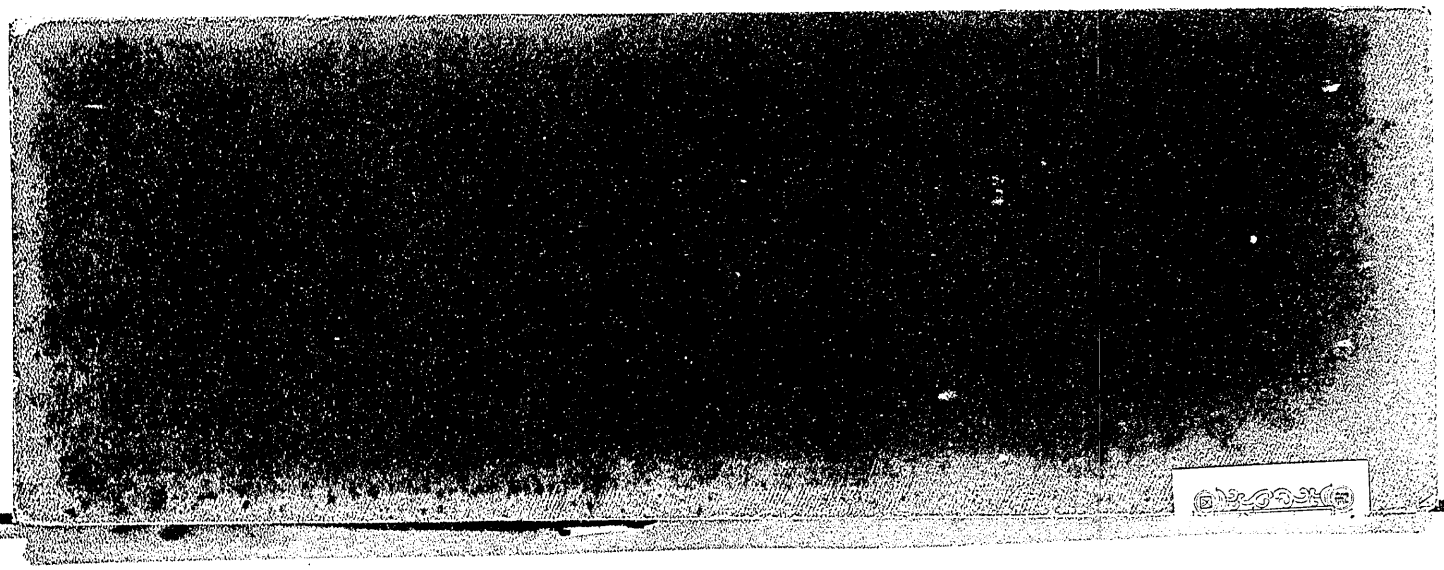
承知無據差支
承知世授差支

病氣參堂立寄
病年未堂主寄

足勞邪魔手數
芝芳邪魔手數

面倒結構馳走
面倒結搆馳走

K2207

明治四十二年四月十五日印刷
仝　年四月廿日出版
發行

著者　小山雲潭
東京市神田區末廣町六番地
發行者　古川清右衛門
仝下谷區練塀町三十番地
印刷者　黒田仙三郎